

オリフィス効果を利用して瞬間過大圧や脈動圧を緩和する調整式の緩衝装置

最高使用圧力／20MPa
耐圧試験圧力／30MPa
使用流体／液体



〈ZKV-1型〉

■ZKV-1 ダンパナ標準仕様

	ねじ(メス×オス)					
	G1/4×G1/4	G1/4×R1/4	G3/8×G3/8	G3/8×R3/8	G1/2×G1/2	G1/2×R1/2
一般材質 黄銅製	ZKV1-221	ZKV1-271	ZKV1-331	ZKV1-381	ZKV1-441	ZKV1-491
耐食材質 SUS316	ZKV1-226	ZKV1-276	ZKV1-336	ZKV1-386	ZKV1-446	ZKV1-496



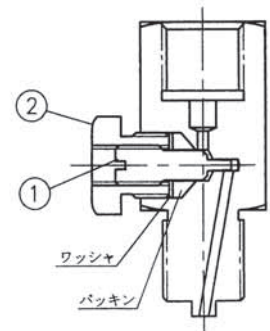
〈ZKV-2型〉

■ZKV-2 ダンパナ標準仕様

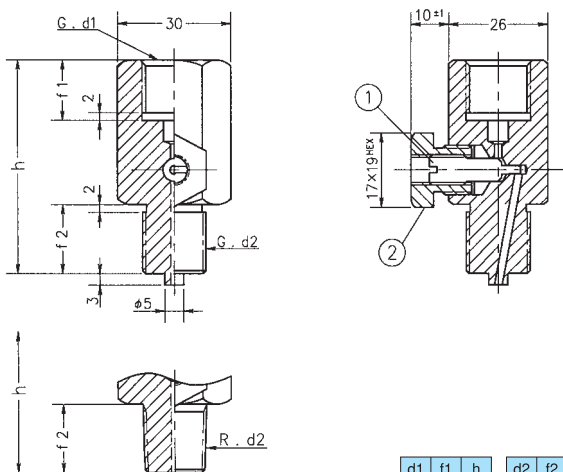
	ねじ(メス×オス)					
	G1/4×G1/4	G1/4×R1/4	G3/8×G3/8	G3/8×R3/8	G1/2×G1/2	G1/2×R1/2
一般材質 黄銅製	ZKV2-221	ZKV2-271	ZKV2-331	ZKV2-381	ZKV2-441	ZKV2-491
耐食材質 SUS316	ZKV2-226	ZKV2-276	ZKV2-336	ZKV2-386	ZKV2-446	ZKV2-496

◆操作の説明

- 通常は中心ねじ①は締め込んでありますから流体の流れは遮断されています。念のためにドライバーで確認して下さい。六角の締め付けナット②を多少緩めると、ねじ①を廻し易くなります。
- ねじ①を左廻しに緩めると通路は開きます。調整は、運転開始時にゲージの指針の振れが約1秒程度で最大圧になるよう、少しづつ廻して調節しますと、一般には脈動圧に対しても最良の抑制効果が得られます。
- 脈動圧調整が主体のときは、少し緩めた位置から脈動の幅が極力小さくなるように徐々に締め込んで調整してください。ねじを緩める程度は流体や圧の高低、あるいは脈動圧の性質によって相違しますが、締切った位置からおよそ0.5～1.5回転程度以内です。戻し過ぎると破損しますのでご注意ください。
- 隔膜装置とゲージ間にダンパナを挿入した製品は、あらかじめ中心ねじ①を調整済みの為〔調整済のため触らないで下さい〕のシールを貼って出荷しますが、ご使用先の脈動サイクルや脈動幅によっては最適条件に微調整した方が良い効果が得られる場合もありますから追記しておきます。
- 最後に六角ナット②を締付けておいてください。

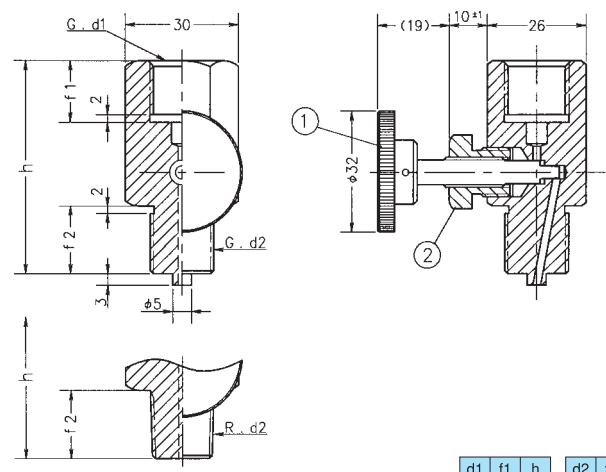


〈ZKV-1型〉



d1	f1	h	d2	f2
1/4	14	52	1/4	14
3/8	16	56	3/8	18
1/2	18	60	1/2	20

〈ZKV-2型〉



d1	f1	h	d2	f2
1/4	14	52	1/4	14
3/8	16	56	3/8	18
1/2	18	60	1/2	20